

# 「地を受け継ぐ者」

～地を受け継ぐ者～

マタイ5：1～10

ある産婦人科に牧師が招かれて行きました。赤ちゃんが生まれたので妻をねぎらってくださいと言われました。ところが病院に着くと他の教会の男性がいて落ち込んでいました。その男性が近づいて来て先生祈ってくださいと言われました。生まれてくるはずの我が子流産で助からなかったのを妻を慰めてくださいと言われました。牧師は悩み神様に祈りました。まず、苦しんでいる人から祈りに行こうと決めましたが当事者の二人が同じ部屋だったので。そこでまた悩み祈りました。二人とも同じクリスチャンだったので一緒に祈りました。私達は短く物事を決断してしまいます。物事についてあなたはどのような判断を下しますか？私達には様々な人生の出会いがありますがそんな時に聖書の言葉を見なくてはいけません。

## 「地を受け継ぐ者」 マタイ5：1～10

地を受け継ぐ者とは柔和な者は幸いであれと命令しています。柔和の言葉の意味は置かれた場所で咲くことです。私達は自らの人生を自分で決断して良いと思っています。ところが柔和ということはその意味ではありません。あなたが置かれた場所でどう咲くかです。柔和の言語を見ると本来の意味は「卑しく抑圧された奴隷状態であること」を示しそこから転じて自分を神の貧しい僕とみなして神の意思に完全に服従しそれ故、隣人に対して怒りや傲慢の思いを抱かない状態を指して用いられる」という意味です。サウル王に対してダビデが屈辱を受け怒ったときの出来事ではダビデはサウル王が目の前で腹を開いて寝ていてナイフ一刺しで殺すことができたのにも関わらず今殺せばあなたの天下ですと、僕の言うことにも聞かずダビデが言った一言は「神が立てた器に私達が手をかけることができようか。そんなことをしてはならない」と言って「衣を少しだけ裂いて王宮を出て行くのです。これが貧しい者であり柔和な者であるという意味です。私達がいかなる状況の中にあっても自らをその場所でなんとか正しく適用させようとする姿です。あなたが怒るのは何の為ですか？人が怒るのは自分の為なのです。人は心で様々な事を思い考えるが神様はその人の心の値打ちを見たと行って言います。怒って解決できれば良いが怒ることは破壊です。怒らず最後まで耐え忍ぶ姿が幸いであり柔和なのです。神の国があなたのものになって、この地まで受け継ぐ約束が柔和なのです。心の貧しい者とは求める姿です。神様を求める姿が心の貧しさです。恵みを求める姿と柔和は同じなものです。そして早く求めればあなたの心が平安になり愛に満たされ愛を流し人々から愛され何をやっても水路の傍に植わった木のように時が来ると実がなり葉は枯れないと言われ、そう成ると約束されているので柔和であれと語られているのです。だから全ての事をつぶやかず疑わずに行きなさいと語られています。このつぶやきと疑いが心と思いを本来の信じる気持ちからずらされ罪人としてされるのです。私達がしなければならぬのはキリスト者としてイエス様のように生きなければなりません。だから柔和であり怒ってはいけません。

## 「正しいか？間違っているか？」を知る

間違っている事が分からなければ、間違っていると思わない時点であなたの成長は止まります。義人はいない一人もいないとも言っています。あなたは間違っていると思わなければいけません。そして正義に生きなければならぬとも言っています。聖書で正しいとは何か？杉原千畝はイスラエルの人達の為に日本国に背き領事としてハンコを押したのは反逆罪でしたが彼は人としてやると言ったのです。これはルールではないと言うことです。この世のルールが正しかったら正しいのでしょうか？クリスチャンは考えなくてはいけません。これが本当に正しいのか、正しくないのか。ルールと正しい事は違うのです。普通と正しい事は違うのです。常識と正しい事は違うのです。聖書は絶えず常識を覆してきました。イエス・キリストは非常識極まりなかったのですが愛が中心でした。正しいとは愛なのです。だから私達はこれを貫かなければいけないのです。自分の常識が間違っていると知ってください。それを照らし合わせ出来るのはイエス・キリストの生き様だけです。聖書を見ることでしかそれを見ることができません。聖書は教えを書いているのではなく生き様が書かれているので生き様から学べと言っているのです。決断して生きようと決め、失敗して

も悔い改めようとした人、失敗しても頑なに逆ギレし心を鬼にした人と二通りの人が聖書には出てきます。教えるではなく言葉でもなく生き様なのです。それが受肉し形として来られたのがイエス・キリストなのです。だから同情できるのです。皆さんも決めなければいけません。私はこう生きると選ばなければいけません。その大前提には愛が中心にあつてつぶやかず、疑わず、絶えず柔和であれということなのです。

## 「柔和であることを心に決める」 イエス様のした通りに

真の謙遜とは柔和である。そして、柔和であると言うことは怒らないと言うことです。怒らず自分と向き合わなければならないのです。愛をもってイエス様がしたように立てあげるのです。甘んじて間違った事を受け入れるのではなく柔和の思いで人を正せと言っているのです。柔和と愛情が相手に届けば良いのです。柔和とは神様を求める姿なのです。だからイエス様は怒るときは愛情をもって100%相手に向いているのです。ペテロは愛されているのが分かっていました。ペテロに向けたのは怒りでなく叱りなのです。

## 「ベエルシェバとイサクとアビメレク」 創世記 26節

ベエルシェバとは7つの井戸と言う意味です。神様は父アブラハムが神様との約束を守ったのであなたを祝福するとイサクに語るのです。イサクは神様の約束された地へ行きました。その地でアビメレクという王様に会います。イサクの妻リベカが美しいので誰ですか？と尋ねられると自分が殺されるといけないから妹ですと嘘をつき答えました。しかし、アビメレクに愛している姿を見られアビメレクは怒りましたが、民に罪を負わせてはいけなからと言って二人に触れないよう守られるようになりました。失敗しても神の民を神様は祝福して下さることがよく分かります。イサクはその後祝福され栄えましたがペリシテ人に妬まれるようになり出て行ってくれと言われ住みに退けました。天幕に住むようになり井戸を掘りましたが原住民が来て争いになりましたが井戸に名前をつけて譲りまた新しい井戸を掘りました。当時井戸を掘るのは大変な作業でした。彼らが井戸を掘ると100%水が沸きました。なぜ必ず水が出るのかというと掘る前に礼拝を捧げていました。そこでアビメレクは主と共に抱かれる姿をはっきりと見てこのまま争っているからと和解しました。これが聖書の約束です。物事が上手くいく条件は柔和であれと伝えています。私達が時かないで得た種、時かずに得た実、今私達は刈り取っています。この時代に彼らがおこなった恵みを私達が壊してよいのですか？私達はしてはならない事を心に決め、決断する事によって心が保たれるのです。

好地由太郎という人がいました。死刑囚でしたが刑務所に間違えて入れられた若者に何をされたのかと聞いても何もしていないと言うだけなので暴行を加えました。その若者が言った一言は「僕が死んでも天国に行くがあなた達は地獄に行く」と言われその言葉が気になり最後に彼が言ったのは聖書を読めと言われました。彼は三年間で聖書を暗記して出所してから牧師になりました。彼が変わったのは刑務所で出会った柔和な若者の姿を見て変わったのです。

心を騒がしてはなりません。悪いやつはあなたの柔和を取り去るのです。あなたを植えたその場所から追い出したのです。与えられた祝福を取り去り、あなたをそこから去るようにしたいのです。地を受け継ぐ者にならなければなりません。地を受け継ぐ方法は柔和であることです。腹が立つても収めるだけです。神の国を受け継ぐ為に神の前に出る、地を受け継ぐ為にその場所で柔和に生きる。この二つです。

(要約者:富岡 美千男)

(9月24日)